



装飾内装材の製品開発

Tokushima Prefectural Industrial Technology Center

岡部興業(株) 岡部健治, 岡部有佳
工業技術センター 生活科学課 室内聡子, 住友将洋, 兼松正文

1. 研究目的

天然木をスライスした突き板と呼ばれる薄い板は, 家具やインテリアの表面化粧として使用されることが多い。その突き板で象嵌された表面化粧材は装飾性が高く, 高付加価値のメリットがある反面, 制作には手作業が多くコストがかかり, 工業製品化するには問題があった。そこで, 突き板象嵌化粧合板を効率良く生産する方法を模索し, 製品化を図ることを目的として共同研究を行った。

2. 研究内容

従来は製造コストが高く量産が困難であったあじろ(杉や檜, 竹の薄板などを互いにくぐらせて編んだもの)模様の象嵌化粧合板について, 試作を行った。

まず, 階段状の突き板を象嵌した後でカットする製造プロセスA(図1)について検討し, 303×1800(mm)の試作品を作成した。しかし, 象嵌工程において問題が生じたため, この方法はあまり大面積の内装材を制作するには適していないことが分かった。

次に, 縦横交互の木目の突き板を作成し, 帯状にカット(図2)したものをスライドさせて象嵌を行うプロセスB(図3)を検討し試作を行った。乾燥時に突き板の収縮による波打ちが起こり, 合板貼り付け時に皺が生じたが, 防ぐ方法について改善を行った結果, 製品として扱える質の突き板化粧合板が仕上がった。(図4)

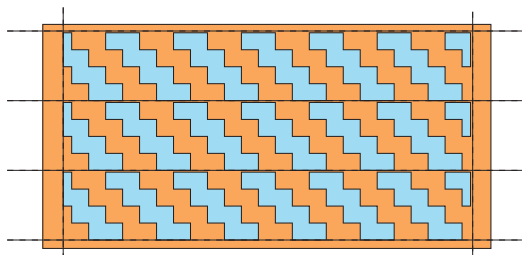


図1 プロセスA

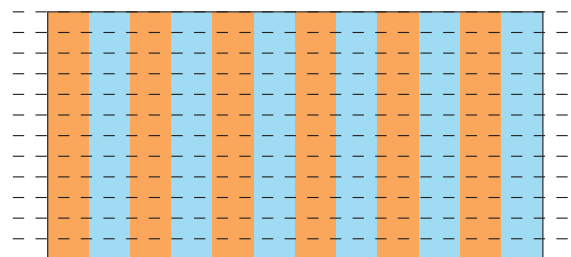


図3 プロセスB(象嵌)

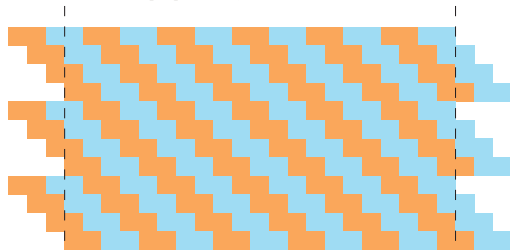


図2 プロセスB(帯状にカット)



図4 試作したあじろ模様の装飾内装材

3. 研究成果

大判あじろ模様の装飾内装材は天井や壁面, ドアなどのインテリア内装材や家具の化粧としての活用が期待される。